

寒くなってきた今の時期、暖房機器は欠かせません。石油ストーブやファンヒーターは、多くの家庭で利用されています。しかし、全国の消費生活センターには、ファンヒーターなどの使用中に「異臭を感じた」「頭痛やめまいがする」「せきが出る」「目がチカチカして痛い」などの相談が寄せられています。

このした症状は、暖房機器の使用だけでなく、シックハウス症候群の一種が原因の可能性もあります。室内の温度が上昇することで壁や床、家具などに含まれていたホルムアルデヒドといった有害成分が揮発して空気が悪くなり症状を引き起こすのです。

では、日頃からどう対応すべきでしょう。具体的には以下の3点に注意してください。

◇1時間に1～2回、1～2分間程度、窓を全開にして換気

◇設定温度を控えめに

◇部屋の広さに対し暖房の効力が大きすぎる機器の使用を控える

閉め切ったままでは室内の空気環境が悪化しますし、効力が大きすぎるとホルムアルデヒドなどの濃度が高くなる可能性があります。

また、過去にはFF式石油ストーブなどの使用による事故も発生しています。2009年4月1日から施行された「長期使用製品安全点検制度」では、FF式の石油温風暖房器や屋内式ガス瞬間湯沸かし器など、9品目を対象商品に定めており、「特定保守製品」という表示がされています。

9品目の購入者は「ユーザー登録」が義務づけられているため、商品の欠陥などが判明した場合は事故情報や回収のお知らせが届きます。もちろん、登録していない他の製品では届きません。

暖房機器による事故は、火災や一酸化炭素中毒などの重大事故を引き起こす可能性が高いため、新聞に記載される社告を見るなど日頃から注意しておくことも大切です。

各メーカーのお客さま相談室に問い合わせると、リコール商品かどうかを教えてください。暖房機器の使用前に取扱説明書の内容を確かめ、自宅で使っている機器の型番や、お客さま相談室の連絡先を控えておくことをお勧めします。